

生 薬 学

教 授 森 田 直 賢
助 教 授 清 水 岑 夫
助 手 有 澤 宗 久

1. 研究概要

当教室は従来から植物成分の化学的研究を行い、各種の植物成分の中でも、特に植物界に分布の広いフラボノイドの研究に重点をおいて、薬用資源の研究と題し研究を継続してきた。近年個々の独立した植物の成分研究という観点を変え、植物の属の研究として成分の大勢とそれらの関連性を見究める、即ち化学分類的研究 (Chemotaxonomy) に従事し、アザミ属、ネコノメソウ属、イヌザンショウ属、ヤナギ属、アイリス属などについて行ない、それぞれの属の成分の異同を解明し、植物の分類に寄与することが出来た。(森田、清水、有澤)。さらにこの他、数種の生薬のサポニンの化学的研究を行い、進行中である。(清水)

[例1]

森田、有澤：台湾産マメ科植物の葉、数十種のスクリーニングの結果、蝶豆の葉から4種の Kaempferol-glycosides を分離し、狗尾草の葉から6種の C-glycosides を分離し、それぞれの構造を決定した。また同じく台湾の法氏海州常山(葉)の血圧降下作用の化学的研究を行い、その作用エキス中から Flavonoid を抽出したが、これが作用物質や否やは今後の研究にまつ。

[例2]

清水：Flavonoid 研究の傍ら Saponin の研究に従事し、カワラナデシコ、キズタ、白頭翁などから Saponin を分離し、一部は学会に報告した。現在なお新配糖体の解明中である。

さらには生薬の品質規格をきめる分析研究を高速液体クロマトグラフィーを応用して実施し、先ず芍薬の品質について研究し、各月の採集サンプリングによる有効成分含量の異同を明かにし、学会で報告する。

[例3]

森田、清水、有澤：近時生薬の有効成分の化学的解明が行われている。しかし、有名生薬や民間薬で、全く成分不明のものがある。これら3~4種につき研究し、成分の解明を行っている。

2. 学会発表

1) ナンテン葉の新配糖体とアメントフラボンの抽出：N., Morita, Shimizu, M., Arisawa, M., and Shirataki, Y.: Chem. Pharm. Bull. **22**:2750(1974).

2) カワラナデシコ葉のサポニンについて：清水、竹本：薬学雑誌 **87**:250 (1967).

3) アザミ属植物、ヤナギアザミからの二新配糖体について：Morita, N., Shimizu, M., and Arisawa, M.: Phytochemistry **12**:421 (1973).

4) キズタのサポニンについて：Shimizu, M., Arisawa, M., Morita, N., Kizu, H. and Tomimori, T.: Chem. Pharm. Bull. **26** (1978).

5) 白頭翁のサポニン：清水、新行内、森田、木津、富森、第24回日本生薬学会、52. 11、東京。(Chem. Pharm. Bull. in Press)

6) 台湾産マメ科植物の成分 I 蝶豆の成分：森田、有澤、長瀬、陳、許、薬誌 **97**:649 (1977).

7) 台湾産マメ科植物の成分 II 狗尾草成分：森田、有澤、長瀬、陳、許、薬誌 **97**:701 (1977).

8) 法氏海州常山の葉の成分：森田、有澤、陳、甘、薬誌 **97**:976 (1977).

9) 生薬の品質規格分析の研究 I 芍薬の品質について：清水、橋本、石川、森田、第98年回日本薬学会総会、53. 4、岡山。